



研 究

府縣市町村より見たる道路事業 (二)

平 井 良 成

丙 我國明治維新後の地方自治

イ 明治元年より市制町村制々定に至る迄

天 維新直後の中央集權主義

明治維新の政變は、我國社會の諸方面に涉り、一大革新を加へ、諸制度また根本的に改革せられ、徳川幕府時代に於ける名主庄屋年寄の舊稱は廢藩置縣の後廢せられ、區長戸長となつた。其後町村長と改められたが五人組、戸長及町村に關する沿革の大略を述べれば左の如きものである。

明治元年七月京都太政官から京都府に於ける舊來の町組

を變革したるの例を標準として周く布告せられた。即ち

「府縣一定ノ御規則不相立候テハ御政令多岐ニ涉リ弊害不少候就テハ差當於京都府相定規則書遍ク御示シ相成候間若其土地民俗ニヨリ難行條件且別紙良法心付候等ノ儀ハ詳論太政官へ可申出追テ御斟酌永世一定ノ御規則可被爲立旨被仰出候事

但見込存付ノ儀ハ八月中ニ差出可申事

今般町組五人組仕法御改正ノ儀ニ付先達テ廣ク評議ニ掛ラレ諸組一統ヨリ覆藏ナク申出候趣執レモ一通り聞召届

ラレ候何事ニ依ラス舊習ニ馴レ從來ノ仕法更革ナキヲ好ムハ人情ノ常ニテ町組ノ儀モ組ニ依リ是迄通ニテ建置レ候様願出候モ尤ノ事候然處當今御新政ノ砌町地方トモ諸御取締向成立方等精々御手ヲ著ケラレ諸民各其職ヲ得ニ和懇親永世安堵ニ渡世致シ候様トノ御旨趣ヲ以テ此度町組ヲモ御改正被仰付候事ニ候元來往古五軒ヲ以テ五人組トシ五人頭一人有之二十五軒ヲ一町トシ年寄役一人有之十五町ヲ合セ一組トシ年行事二人建置シ候事ト相見候然處幾百年ノ久ニ至リ人民ノ蕃殖ニ從ヒ土地次第ニ相開ケ戸數日月ニ相増新町枝町等モ出來シ最寄ノ町々互ニ組合ヒ終ニ百町近キノ大組トモ相成又ハ五六町ヨリ二三町位ノ小組トモ相成新古大小ノ差別ヲ以古組大組ノ差圖ヲ請來候儀ト相見從テ往古十五町一組ノ制度モイツトナク相崩レ候モ亦自然ノ勢ナリ去ナカラ治平ノ世ニハ町役諸賈キ等モ無數ユヘ大組小組町數大不同有之候トモ孰レモ安穩ニ渡世相成候事ト相考ラレ候處追々澆季ノ世ト變換シ二十年前來益多事ノ世ニ押移リ近年ニ到リテハ遂ニ爭

亂相起リ王城ノ土人トシテ目ニ旌旗ノ色ヲ見耳ニ砲鼓ノ聲ヲ聞ニ至リ加之不幸ニシテ兵火ノ爲メ其家ヲ燒ル、モノモ不少斯ル紛擾ノ世ト相成ニ隨ヒ町役諸賈キ等前世ヨリ如何計リ歟相増物價ノ騰貴モ亦前古無例ナリ旁諸人ノ迷惑一形ナラス町役諸賈キ等モ大組町ハ軒數人員モ多ク可成繰卷モ可相調候ヘトモ小組町ニ至レハ格別ニ難澁セシメ候儀申ニ及ハス畢竟從來執政ノ者人民撫育永世不朽ノ制度ニ於テ心ヲ不用ニ依テナリ今ヤ御一新ノ世ト相成諸政御復古ノ旨ヲ以テ從前制度ノ内善キコトハ御取用善カラサル事ハ御改正相成人民御扶助ヲ專一ニ御手ヲ著ラレ第一ニ町組餘分ノ不同無之様御組替相成町役諸賈物等ニ於テ御吟味ノ上仕法御改正ノ品モ可有之候條市中一統ニ於テモ厚ク御主意筋ヲ奉戴シ舊習ニ泥ムノ常情ヲ去リ今日ヲ往古組合ノ始ト相心得從來ノ出入等ハ互ニ打捨古町新町枝町離町ノ差別ナク別紙御仕法ノ通町々申合セ速ニ組合セ永々親疎ナク相交リ各職業ヲ出精セシムヘキモノ也

但諸組申出ノ趣御酌斟ノ上別紙ノ通御仕法御改替相成候條大組ハ町數不同無之様一組内ニテ組分小組ハ他組ト組合セ別紙雛形ノ通り委細ニ書記シ來ル廿日迄ニ上京下京トモ書付相束子可差出事

附先達テ申出ノ内別紙御仕法ノ町數ニ相足り候組尙又年寄人撰取極名前書出又ハ町々ヲ新規ニ組合候段申出候組モ有之候ヘトモ右等ノ部モ雛形ノ通り書記シ改テ可申出候尤御仕法通町數相足候組タリトモ最寄ノ組ヨリ組合示談ノ節御仕法ニ叶候趣ヲ以理不盡ニ承引致サス様ノ儀有之間敷事

右ノ通相達スルモノ也

明治元年七月

京都府

町組五人組仕法

一、上京下京ヲ分テ兩大組トシ上大組下大組ト唱ヘ是迄ノ通り三役建置レ觸達其外總テ組内ノ諸支配ヲ管轄セシメ役名大年寄役ト相改ラレ候事

但洛外ノ儀モ是迄市中同様三役ヨリ諸通達等致シ來

候處ハ方角ヲ以テ兩組ヘ割付ノ事

一、兩組トモ古町新町枝町離町等ノ名目ヲ廢止最寄凡二十町ヲ一組ニ組合セ之ヲ小組トシ一二番ノ數ヲ以テ上京何番組下京何番組ト唱フヘシ總町組合セノ内町數多少コレアル處ハ十五町ヨリ三十町マテニ組合セ一町別年寄役ノ儀ハ是迄ノ通り建置レ候事

但是迄六七十町又ハ九十町百町餘モ町數有之組ハ三組四組五組ニモ組分凡二十町餘モ組合スベシ二三町ヨリ七八町内外ノ組ハ最寄ノ組ト組合御仕法ノ町數ニ定ムヘキ事

一、一組ニ付年寄役一人添年寄役一人建置レ組内ヘ傳達ノ事件ヲ始メ平常諸世話駈引等ヲ總括セシメ時ニヨリ一組中ノ總代ニ相立ヘキ事

但中年寄役添年寄役ノ儀ハ下ニ於テ人柄相撰申出スベシ總代同加番年寄役年行事議事者等ノ内ニテモ家格ニ拘ラズ衆人ノ折合ヨキ人柄ヲ撰擧勿論ノ事

一、組合鰥寡孤獨廢疾ノ者ハ不及申火災盜難ニ罹リ又ハ

産業ヲ失ヒ渡世難澁ニ立至リ候者有之時ハ速ニ可申出
ハ勿論ニ候ヘ共大年寄役ヲ始メ町役人トモ精々申合セ
平常扶助ノ道ヲ可盡事

但組内ノ者必至困窮ニ迫リ非命ノ死ヲ遂ケ或ハ乞食
ニ零落シ又ハ悪心ヲ生シ盜賊ニ陥リ候モノ有之時ハ
畢竟平常世話不行届ノ故ニテ其町内役方ノモノ越度
タルヘキ事

一、善行奇特人有之時ハ組内ハ謂ニ不及他組タリ凡五ニ
穿鑿シ早速申出ヘシ善人ノ出ルハ兼テ示方宣敷故ニテ
其組内ノ美事タリ當人ハ勿論品ニ依リ其組町内役方ノ
者迄モ御褒美ノ等有之ヘキ事

一、組内放蕩無頼ノ者有之時ハ其組町内役方ノ者其父兄
並親戚俱々厚ク教諭ヲ加ヘ善路ニ導クヘシ萬一折檻ヲ
モ用ヒス惡業ヲ募リ候者有之ニ於テハ早速可申出事
一、組内諸願事訴訟又ハ難澁ノ筋申出候節ハ其組町内役
方ノ者篤ト聞糺シ早速取次申出ヘシ萬一彼是故障ヲ生
シ町役人ノ許ニ沈滞セシメ又ハ不正ノ取計振有之ニ於

テハ曲事タルヘキ事

一、一町内五人組ノ事

但家並五軒ヲ以テ一組トシ順々組合セノ内軒數多少
出來ノ處ハ七八軒又ハ四軒迄ヲ組合スヘシ家並順次
差間ノ所ハ隣合セ向ヒ三軒ノ割ヲ以テ組合セ一組内
年長又ハ頭立者ヲ以テ五人頭ト云ヘシ自然五軒トモ
ニ老人幼少又ハ婦人ハカリニ候ハ、家並ノ順次ニ拘
ハラズ頭分相動リ候者ノ家ヲ入交組合スヘキ事
一、五人組ハ一町内ニテモ親或同様殊更懇切ニ相交リ吉
凶相扶ケ疾病相憐ミ盜難火災其他非常等有之時ハ五ニ
可相救事

但組内兼々善惡五ニ勤戒スヘキハ勿論善人惡人等有
之時ハ早速五人頭へ届出五人頭ヨリ年寄役へ届出年
寄役ヨリ當府へ届出ヘシ當人ハ不及申品ニ依リ五人
組中ノ越度タリ總テ組内喧嘩口論其他何事ニ依ラス
故障出來ノ節ハ五人頭へ届出五人組取捌苦キ時ハ年
寄役へ届出年寄役ヨリ中年寄役へ届出中年寄役ヨリ

大年寄役へ届出共ニ相談シ取鎮ヘシ自然町役人共取
 捌キノ手段ニ絶エ候節當府へ届出ヘキ事

以上

右ノ通今般御改正被仰出候條組々一和各職業相勵御仕法
 ノ條々永世堅可相守モノ也

と則ち明治維新前に在つては幕府直轄地——天領と各藩に
 於ては地方制度區々に誤つて居つたのであるが、諸政の革
 正に伴ひ全國を劃一的に定めんと欲して斯くは京都府制定
 の五人組制度を模範とし公示したものである。元來徳川時
 代に於ての封建制度の許に組成せられた五人組の如きは不
 統一であつて、封建制度の崩壊せられた後に存在せしむべ
 きものでなく、若し否らざるに於ては中央集權主義の實行
 上大なる障礙となるものである。而して其の京都府所定の
 制度では五人組の組織、權限、責任等を一定したるものであ
 る。此五人組制度に付き考駮するに之れを以て直に地方自
 治制度なりと斷言することは早計なりと言はなければなら
 ぬ、政府官吏の指揮干渉を受くることなく五人組役員に於

て組員連帶的の責任を以て任意に處置することが肯定され
 ておる、だから事務的見地から觀察するときには或は地方自
 治の作用であるが如き感を生ぜざるに非らざるも五人組制
 度は自律自存の自治精神に基礎付けられたるものでなく單
 に國政變理上の圓滑安穩を欲して隣保相互扶助の美風良俗
 を涵養し、其の實行力の訓練を爲さしめんことの觀念に出
 てたるものである、其處に團體の觀念も其の人格も其の意
 志の決定、表現の途も認められて居ない事は前記太政官の
 布告全文を通讀すれば瞭然として確知して得るのである。
 實に五人組制度は中央集權主義の實現に利用せられたもの
 であると言ふも不當の斷定にあらざるものと信ずる。此の
 五人組の本質を案するに之れは英國に於けるギルド、普國
 に於けるドルフとは大に異なるものであつて今日我國に存
 在する部落とも見られず單に部落の萌芽となつたに過ぎな
 いものに外ならない、乍去五人組制度の如き隣保相互扶助
 の精神を涵養する方法はやがて地方自治團體の基礎となり
 身的物的奉仕の習熟手段たらしむる尤も大にして尙ふべき

價値が有ると思はる。尙進んで時の政府が五人組をして如何に國の行政事務を處理せしめたかを述べんに夫れは明治二年三月十日京都府に於て郡市社寺農商制法並村町役心得方として公表したものであるが其の内社寺の制法以外の分を左に掲ぐる。

○郡中制法

條々

一(1)御高札ノ旨謹テ可相守事

一(2)追々布告スル趣不可違背事

一(3)邪宗門並怪異ノ宗法堅ク禁之然ル上ハ五人組互ニ

穿鑿シ不審ノ者有之ハ速ニ可申出若緩セニシテ他ヨリ

於洩聞ハ五人組ノ者モ可爲越度事

一(4)五人組ノ儀ハ家並最寄ヲ以テ組合セ親戚同様親シ

ク可相交事

附組内喧嘩口論其他故障出來ノ節ハ組頭取捌カタキト

キハ庄屋へ相届可成タケハ村内ニテ取治ムヘシ自然庄

屋ノ心ニモ不任トキハ可言上事

附他處人人別ニ加リ度願出ルモノアラハ出處産業等聞
糺シ是迄ノ在處役人ヨリノ送り狀ヲ取り人柄不審モ無
之請人等モ有之ハ其書モノヲモ取置願出聞届ノ上五人
組へ加フヘシ其儀ナク不審ノモノ留置ニオイテハ五人
組ノ者可爲越度事

附他處人出稼ニ來ルモノモ同斷是迄ノ在處役人ノ添書
ヲ取り人柄不審モ無之請人等モ有之ハ其書モノヲモ取
置願出聞届ノ上可免滞居其儀ナク不審ノ者留置ニオイ
テハ家主五人組トモ迄モ可爲越度事

附他處ヨリ年限リ奉公人雇入ルトキハ篤ト取糺シ親元
名前年齢等書記シ庄屋へ可届出其儀ナク不審ノモノ留
置ニオイテハ主人可爲越度事

附他處へ轉居此地ノ人別ヲ外レ度願出ルモノハ組合庄
屋トモ旨趣詳ニ聞糺道理至極ノ儀アラハ其段願出聞届
ノ上庄屋ヨリ送狀差出シ先方ノ人別ニ加へ此地ノ五人
組ヲ除クヘキ事

附年限ヲ以他處稼ニ出ルモノモ同斷庄屋ヨリ添書差出

スヘシ右歸リ期限ヲ誤ルヘカラス無據滯留イタスニ於テハ其趣速ニ可申越事

附組内死生縁組改名田島山林賣買讓與其外廉立出入有之ハ其度々庄屋へ相届戸籍へ可書記事

一(5)村内懇和シ吉凶相助ケ善ヲ勸メ惡ヲ戒メ共々渡世ノ安穩ヲハカルヘキ事

附孤獨廢疾無告ノ窮民ハ村内五ニ申合常々心ヲ付ケ救助申出等遺漏沈滞不可有之事

附火災盜難或ハ病氣等ニテ産業ヲ失フモノアラハ組合村内心遣ヒ産業ニ基カシムヘシ不任心事アラハ速ニ可申出事

附盜賊亂暴人水難火災等都テ非常警メノ儀ハ五人組村内ニテモ兼テ申合置急變相救フヘキ事

附盜賊惡業擲捕申出ルモノハ褒美ヲ與フヘキ事
附用事ニ付他國へ出ルモノハ其趣ヲ庄屋へ相届庄屋ヨ

リ往來券ヲ取り可罷出然ル上ハ於他國病氣或ハ死去等ノ儀相聞ハ親類組合ノ内又ハ村役人ノ者罷越一件可取

捌事

附諸事心得不宜身分放埒ナルモノアラハ五人組村役人教諭ヲ加ヘ善道ニ導ヘシ自然徒ラヲ構ヘ折檻ヲ不用惡行相募ルニオイテハ可訴出事

附善行奇特ノモノアラハ申出ヘシ善人ノ出ルハ兼テ示シ方ヨロシキ故ニテ其組合其村ノ美事タリ當人ハ勿論品ニヨリ庄屋五人組ノ者迄モ可與褒美事

一(6)農業ヲ不勤不正ノ商賣ヲ事トシ高利ヲ貪ル事堅ク誠ムル所ナリ諸事農家ノ風ヲ不失耕作精々可相勵事

附有徳ノ百姓米銀ヲ貸トイヘトモ利息尋常タルヘシ貸家カシ地等過當ノ代料取ルマシク諸職人作料手間賃申

合セ高直ニスヘカラサル事
附米穀諸商物締買或ハ申合セ高價ニスヘカラサル事

附出處不知物品ハ質ニ取ルマシク出處知レタルモノニテモ請人無之品ハ質ニ取ルヘカラサル事

附盜物質取又ハ質ニ取置モノハ品物取上申付ヘシ盜物ト予知買請ケ又ハ質ニ取ルモノハ咎方ヲモ可申付事

附贖七金銀其外惡タクミヲ以テ人ノ目ヲ掠ムルモノアラハ速ニ可訴出假令一旦其事ニ攜ルトイヘトモ其咎ヲ免シ遣スヘシ

附人ノ賣買堅ク禁止ノ事

一(7)博奕其外賭ノ諸勝負堅ク禁之若竊ニ取扱フモノアラハ可訴出隠シ置他ヨリ於洩聞ハ村役人五人組迄モ可爲越度事

一(8)横死人自害人倒レモノ等有之ハ番人付置可遂注進事

一(9)往來ノモノ怪我病氣飢渴等ニテ相煩ハ、醫師へ見セ能々介抱イタシ遣スヘシ若步行モ不相叶トキハ其モノ、在處承リ村送りニシテ送り届ルカ又ハ迎ヲ呼寄ルカ無疎略可取扱致病死トキハ其者ノ道具等不紛失ヤウ封印締リニシテ在所へ可掛合事

一(10)捨子墮胎制禁ナリ自然貧窮ニテ養育不能者ハ可申出救助シ可遣事

附捨子有之節ハ村内申合致養育置可届出事

一(11)出所不慥者へ宿賃スマシク都テ旅人止宿ヲ乞フト

キハ在所其外聞糺シ往來券相改處役人へ相届其上ニテ止宿イタサスヘシ一己ノ了簡ニテ宿賃スヘカラサル事但遊女野郎ノ類一切不可留置一夜ノ宿モカスマシキ事附社寺堂宮ニ隠シ忍フ胡亂ノモノアラハ近邊ノモノ申合致吟味搦捕可遂注進事

附他處ヨリ不審ノモノ入込ハ五人組所役人等致吟味品ニヨリテハ搦取可遂注進事

一(12)新規ノ社寺建立停止ノ事

附猥リニ僧尼ト成ル事禁之自然理至極ノ儀於有之ハ願出ノ上可免許事

附佛名題目ノ石塔供養塚石地藏等建立ノ儀向後停止タリ理至極ノ儀アラハ願出ノ上可免許事

一(13)神事佛事祭禮等ノ節山鉾其外處不相應ノ寄附タトへ舊例タリトモ可致減省事

附神佛開帳可届出事

一(14)角力芝居狂言等私ニ興行スヘカラス願出可請免許

事

一(15)兼テ允許無之場所ニテ遊女藝妓等不可抱置事

附百姓ノ妻娘共ニ三味線舞曲等ノ遊藝ヲ專トシ遊客酒宴

ノ席ニ立交リ藝者遊女等ノ見習ヒスルコト堅ク可相誠

事

一(16)身分ニ應セサル饗應事僭上驕奢ノ風儀相誠ル處ナ

リ掣取嫁取養子取組出産年賀葬祭等ノ儀花美虚飾ヲ省

キ實意ヲ旨トスヘキ事

一(17)田島不荒様ニスヘシ水損等ニテ荒地トナリ起シ返

シ一家ノ力ニ不及處ハ村中互ニ助勢スヘシ村中ノ力ニ

モ不及程ノコトハ可申出事

附永荒ノ地起シ返シ又ハ新田島開立ハ可届出事

一(18)田畑ヲ開キ可然地ハ村々申合セ處役人立合秣場作

道等ノ妨ニモ不相成ハ可申出新開可申付事

附堀ヲ埋溝筋道筋ヲ付替又ハ新堀堤等築トキハ村役人

立會吟味ノ上可請差圖事

附用水堤田畑ノ境界等常々申合セ置不可諍論事

一(19)溝川道橋堤防等大破ニ至ラサル内可加修復尤下ニ

オイテノ普通ニ難成程ノ儀ハ可申出洪水等ノ節ハ村中

出會可守護其儀モ無之且常々修復ニ怠リ及大破事其村

村役共ノ可爲無念事

附川中害洲等ヘ私ニ田畑ヲ開キ又ハ樹木ヲ植付家屋ヲ

構ル事停止ノ事

附堤防川岸等ヘハ柳吳竹等ヲ植出水ノ節ノ圍ニ可相成

常々可遂心配事

一(20)御用人馬ハ不及申往來ノモノ人馬繼立晝夜ニ不限

無滯可差出事

一(21)御林御立山ノ竹木枝葉タリトモ御用ノ外採用停止

ノ事

一(22)耕作秣場等ノ支リニ不相成土地見立樹木可植置事

一(23)出役ノ面々權威ヲ振ヒ或ハ私曲ヲ構無理ヲ仕掛ル

等ノコトアラハ不隱可訴出末々家來下人等ニテモ可爲同

斷事

附廻郡ノ節百姓ノ馳走ニ不成村々費無之様申付候條聊

ニテモ饗應體ノ儀スヘカラサル事

(24) 賄賂堅ク禁之種々名目ヲ付ケ輕キ品ニテモ差贈ルマシク別テ出役ノ面々ハ是迄如何程ノ因ミ有之トモ普信禮物等差出事一切停止ノ事

(25) 諸事公論ニ決シ衆庶其處ヲ得各志ヲ遂ケシムル事
王政ノ御趣意タリ其旨ニ背キ諸人ヲ妨ルモノアラハ村役ハ素ヨリ假令諸官有志ノ面々タリトモ無憚可訴出事
附何事ニヨラス世上ノ爲ト相成事心付ハ何時ニテモ可申出事

右條々堅可相守是永世ノ制法タリ聊不可違背モノ也

明治巳巳三月

京都府

○市中制法

條々

「條々ノ内郡中制法ノ(1)(2)(3)(7)(9)(12)(13)(14)ハ同文ニ付之ヲ省略ス

一、五人組ノ儀ハ家並最寄ヲ以組合セ親戚同様親シク可
相交事

附組内喧嘩口論其他故障出來ノ節五人組頭へ届五人組頭取捌カタキトキハ町年寄へ相届可成タケハ町内ニテ取治ムヘシ萬一心ニ不任トキハ中年寄大年寄ト順序ニ届出共々取鎖手段ヲ盡スヘシ自然其取捌ニモ不任トキハ可言上事

附他所人々別ニ加リタク願出ルモノアラハ出所産業等聞糺シ是迄ノ在所役人ヨリノ送り狀ヲ取り人柄不審モ無之請人等モ有之ハ其書モノヲモ取置願出聞届ノ上五人組へ加フヘシ其儀ナク不審ノモノ留置ニオイテハ五人組ノ者可爲越度事

附他所人店借り出稼等ニ來ルモノモ同斷是迄ノ在所役人ノ送り狀ヲ取り人柄不審モ無之請人等モ有之ハ其書モノヲモ取置願出聞届ノ上滞留イタサスヘシ其儀ナク不審ノモノ留置ニオイテハ家主五人組ノモノ迄モ可爲越度事

附他所ヨリ年限奉公人雇入ルトキハ篤ト取糺シ親元名前年齢等書記シ年寄へ可届出不審ノモノ留置ニオイテ

ハ主人ノ可爲越度事

附他處へ轉居此地ノ人別ヲ外レ度願ヒ出ルモノハ旨趣
詳ニ組合町役聞糺シ道理至極ノ儀アラハ其段願出聞届
ノ上町役ヨリ送り狀差出シ先方ノ人別ニ加ヘ當地ノ伍
組ヲ可除事

附年限ヲ以他所稼ニ出ルモノモ同斷町役ヨリ添書差出
スヘシ右歸リ期限ヲ誤ルヘカラス無據滯留スルニライ
テハ其趣速ニ可申越事

附組内死生緣組改名家宅賣買抱地讓與產業替ヘ其他出
入有之ハ其度々町年寄ヘ相届戸籍ヘ可付記事

一、町内懇和シ町組相扶ケ善ヲ勸メ惡ヲ戒メ共ニ渡世ノ
安穩ヲハカルヘキ事

附鰥寡孤獨廢疾無告ノ窮民ハ町内互ニ申合常々心ヲツ
ケ救助申出等遺漏沈滯スヘカラサル事

附火災盜難或ハ病氣等ニテ產業ヲ失フモノアラハ組合
町内心遣ヒ產業ニ基ツカシムヘシ不任心底事アラハ速

ニ可申出事

附盜賊亂暴人防方火ノ用心其他都テ非常警メノ儀ハ五
人組町内組内マテモ兼テ申合置急變相助ヘシ事柄ニヨ
リ隣町組ヨリモ互ニ可相救事

附商用其外ニテ他國へ出ルモノハ其趣町役へ申出町役
ヨリ往來手形ヲ取可罷出然ル上ハ於他國病氣或ハ死去
等ノ儀相聞ハ親類組内ノ内又ハ町役ノ者罷越一件可取
扱事

附諸事心得不宜身持放埒ナルモノアラハ五人組町役ノ
モノ教訓ヲ加ヘ善道ニ導ヘシ自然徒ヲラ構ヘ折檻ヲ不
用惡行相募ニライテハ可申出事

附善行奇特ノモノアラハ申出ヘシ善人ノ出ルハ兼テ示
シ方ノ宜キ故ニテ其組合其町ノ美事タリ當人ハ勿論品
ニヨリ町役五人組ノモノ迄モ可遣褒美事

一、高利ヲ貪リ不正ノ商賣堅ク誠ムル所ナリ諸事正直ヲ
旨トシ家職精々可相勵事

附貸家貸地等過當ノ代料取ルマシク諸職人作料手間賃
申合セ高直ニスヘカラス

附諸商物取締買或ハ申合高價ニスヘカラス世上ノタメニ諸物ノ融通セシムル心得可爲肝要事

附出所不知物品ハ質ニトルマシク出所知レタルモノニテモ證人無之品ハ質ニ取ルヘカラス

附盜物買取又ハ質ニ取置モノハ品物取アケ申付ヘシ盜物ト乍知買請質ニ取ルモノハ咎方ヲモ可申付事

附贖セ金銀其外惡タクミヲ以テ人ノ目ヲ掠ムルモノアラハ速ニ可訴出假令一旦ハ其事ニ攜ルトモ其咎ヲ免遣スヘシ

附人ノ賣買堅ク停止ノ事

一、横死人自害人倒レモノ等有之ハ番人付置可遂注進事

附怪我人飢人病人等有之節見捨置事不人情ノ至ナリ假令素生不知モノタリトモ醫師ヲ付介抱ヲ加ヘ可届出事

一、兼テ免許無之場所ニテ遊女藝妓等可抱置事

附町人ノ娘共三味線舞曲等ノ遊藝ヲ專トシ遊客酒宴ノ席ニ立交リ藝者遊女等ノ見習ヒスル事堅ク可相戒事

一、身分ニ應セサル饗應事僭上ノ所行等イタスマシキ事

附鞆取嫁取養子取組或ハ家督屋商買得ノ弘メ出産年賀質葬條等ノ儀花美虚飾ヲ省キ實意ヲ旨トスヘキ事

一、出處不知モノヘ宿賃マシク都テ旅人止宿ヲ乞フトキハ在所其外聞糺往來券相改處役人ヘ届ケ其上ニテ止宿イタサスヘシ一己ノ了簡ヲ以テ宿賃ヘカラサル事

附社寺堂宮ニ隠レ忍フ胡亂ノモノアラハ近邊ノモノ申合致吟味搦捕可遂注進其外他所ヨリ入込モノ不審有之ハ落付處見届可申出事

一、帶刀人僧尼ノ鞆町人名前ノ地ニ假居スル者ハ軒役其

外町入費町人同様差出サセ可申理不盡申立ルモノアラハ可訴出事

附商家住居ノ帶刀人僧尼ノ鞆火用心廻リ其外町内一統ノ人役ノ儀ハ代人雇立差出サセ又ハ代料ニテモ差出サセ可申事

一、役人ノ面々於市中權威ヲ振ヒ或ハ私曲ノ取計無理ヲ仕掛ル等ノ事アラハ不隱可訴出末々家來下人等ニテモ同斷タルヘキ事

一、賄賂堅ク禁之町人トモ種々名目ヲツケ輕キ品ニテモ差贈ルマシク別テ奉役ノ面々へハ是迄如何程ノ因ミ有之トモ音信禮物差出事一切停止ノ事

一、諸事公論ニ決シ衆庶其處ヲ得各志ヲ遂ケシムル事王政ノ御趣意タリ其旨ニ背キ諸人ヲ妨ルモノアラハ町役或ハ有官有司ノ面々タリトモ無憚可訴出事

附毎年町役公撰入札ノ儀依怙偏頗ナク家格ニ拘ラス至當ノ人材可申出事

一、附議事ニ下ス事件私曲ヲ構ヘス忌諱ヲ不憚公正ニ可申出事

附何事ニヨラス世上ノ爲ト相成事心付ハ何時ニテモ可申出事

右條々堅ク可相守是永世ノ制法タリ聊不可違背モノ也

明治二年己巳三月

京都府

○村庄屋心得條目

村庄屋可心得條々

一、庄屋役ノ儀ハ一村ノ長トシテ百姓共へ傳達ノ事件ヲ

始メ平生諸世話駈引等其役務タリ時ニヨリ村中ノ總代ニ可相立事ニ付謹テ御仁政ノ御趣意ヲ奉シ可遂精勵事

一、役威ニ傲リ尊大驕奢ノ所行堅ク誠之村内百姓共ヨリ申出ル儀ヲ是非ヲモワカタス差押へ情實ヲ上達セス或ハ公事訴訟等ニ付賄賂ヲ請依怙ノ取計等イタスマシク方正廉直ヲ旨トシ條理明ラカニ可取計事

一、追々布令達スル趣屹度相守旨趣審カニ村内へ可申出事

一、百姓離散セサルヤウ相心得貧窮ノモノアラハ難澁イマタ行詰サル内扶助ノ手立ヲナスヘシ自然下ニライテ心ニ不任程ノ事ハ速ニ可申出常ニ花美ノ奢ヲ戒メ無益ノ費ヲ省キ農業ヲ勸メ諸人盛立ノ心遣可爲肝要事

一、田畑不荒様堤防溝川遺橋等修補ニ怠ルヘカラス自然水損等ニテ及大破下ニライテ普請難調程ノ事ハ速ニ可申出荒場起シ返シノ儀モ村中申合精々可心遣百姓ノ力ニ不及事ハ是又速ニ可申出事

一、田畑用水筋山林等境界ヲ正シ爭論不起様兼テ可付心

事

一、御用人馬ハ不及申往來ノモノ人馬繼立晝夜ニ不限無
滯様兼テ其仕法立スヘキ事

一、御米藏ノ儀常々心掛雨モリ等無之様可加修復勿論番
人等緩セニスヘカラサル事

一、收納米其外諸上納物念ヲ入百姓ノイタミニ不相成様
可心掛事

一、官用卜號シ村内ヘ不當ノ出金イタサセ間敷村内諸入
費可成丈ケハ相減シ明細ニ書記シ置百姓中疑ヲ不生ヤ
ウ其譯具ニ申聞セ清廉ノ取計可爲肝要事

一、水利ヲ起シ土地ヲ開キ良木ヲ植付物産ヲ盛ンニシ永
世村里ノ榮ヲ計ルヘキ事

一、村内懇和善ヲ勸メ惡ヲ誠メ風儀ヲ宜ニ導事村役人ノ
勤方ニアリ心得方不宜モノアラハ慰勸ニ教諭ヲ加ヘ行
狀ヲ改メシムヘシ且又請人ニ抽心得ヨロシキモノアラ
ハ逐一ニ可申出事

一、常ニ戸籍ノ取シラヘ不宜村内ニ不審ノモノ不可留置

事

一凶年飢歲ノ手當無怠可遂心配事
右ノ通可相心得モノ也

明治二年巳巳三月

京都府

○町役心得條目

大年寄役可心得條々

一、大年寄役ノ儀ハ諸町役ヲ管轄シ大切ノ職務タリ謹テ
御仁政ノ御趣意ヲ奉シ可遂精勤事

一、諸町組ヨリ申出ル儀ヲ是非ヲモワカタスサシ押へ情
實ヲ上達セス或ハ公事訴訟ニ付賄賂ヲ請依怙ノ取計イ
タスマシク諸町役ノ者不心得無之様常々心ヲ付可引立
事

一、諸町人ヘ相達スル趣無滯速ニ中年寄共ヘ傳達シ旨趣
審ラカニ可申聞事

一、役威ニ傲リ驕奢尊大ノ所行堅ク禁之常ニ花美ノ風ヲ
警メ無益ノ費ヲ省キ正直篤直ヲ旨トシ諸町役ノ模範ト
可相成事

一、善ヲ勸メ惡ヲ戒メ風儀ヲ宜ニ導キ市中永世ノ繁榮ヲハカリ窮民救助凶年手當等無怠可遂心配事

右ノ通可心得者也

明治二年己巳三月

京都府

○中年寄役可心得條々

一、中年寄役ノ儀ハ町組内諸町年寄トモヘ傳達ノ事件ヲハシメ平生諸世話駈引等其役タリ時ニヨリ町組中ノ總代ニ可相立事ニ付謹テ御仁政ノ御趣意ヲ奉シ可遂精勤事

一、町組内ヨリ申出ル儀ヲ是非ヲモワカラスサシ押ヘ精實ヲ上達セス或ハ公事訴訟ニ付賄賂ヲ請依怙ノ取計等イタスマシク町年寄共ヘモ此旨常々申聞セ不正ノ取計不致様心ヲ付可申自然不心得ノモノ有之ハ速ニ可申出事

一、追々相達スル趣屹度相守諸布令其外傳達無沈滯速ニ取計旨趣審ニ町々ヘ可申聞事

一、町々懇和互ニ扶助保護ノ手立ヲナシ常ニ花美ノ奢ヲ

戒メ無益ノ費ヲ省キ職業ヲ勸メ組内成立ノ心遣肝要タルヘキ事

一、隣町組相親ミ互ニ氣ヲツケ可申談聊隔絶スル事不可有之事

一、善ヲ勸メ惡ヲ戒メ風儀ヲ宜ニ導事町役トモノ勤方ニアリ精々申談心得方不宜モノアラハ慇懃ニ教諭ヲ加ヘ行狀ヲ改メシムヘシ且又諸人ニ抽心得宜モノアラハ逐一ニ可申出事

一、會所集議ノ節其外飲食ニ長シ又ハ雜話ニ打過費用ヲ不省職業ヲ妨ル事堅ク禁之心得違無之ヤウ町々ヘモ兼々可申聞事

一、常々戶籍ノ取シラヘヲ不怠町組内ニ不審ノ者不可留置事

右ノ通可心得モノ也

明治二年己巳三月

京都府

○町年寄共可心得條々

一、町年寄トモノ儀ハ其町内ヘ傳達ノ事件ヲ始メ平生諸

世話駄曳等ヲ致シ時ニヨリ一町村ノ總代ニ可相立事ニ付謹テ御仁政ノ御趣意ヲ奉シ可遂精勤事

一、町内ヨリ申出ル儀ヲ是非ヲモワカタス差押へ情實ヲ上達セス或ハ公事訴訟ニ付賄賂ヲ請依怙ノ取計等イタス間敷事

一、追々布令達スル趣屹度相守旨趣審ニ町内ノ者へ可申聞事

一、町内家々離散セサルヤウ相心掛貧乏ノモノ有之難澁行詰サル内扶助ノ手立ヲナスヘシ自然下ニツイテ心ニ不任程ノ事アラハ速ニ可申出常ニ花美ノ奢ヲ戒メ無益ノ費ヲ省キ職業ヲ勸メ諸人成立ノ心遣可爲肝要事

一、善ヲ勸メ惡ヲ戒メ風儀ヲヨロシキニ導事町役ノ勤方ニアリ心得方宜カラサルモノアラハ精々教諭ヲ加ヘ行狀ヲ改メシムヘシ且又諸人ニ抽心得宜者アラハ速ニ可申出事

一、常ニ戶籍ノ取シラベテ不怠町内ニ不審ナル者不可留置事

一、火ノ元別テ念ヲ入夜廻リ等無怠相勤候様可申付事
右ノ通可心得モノ也

明治二年己巳三月

京都府

右の如く地方行政の職に在る者に對し職務權限、服務心得又は行政の方針等に涉り指示する外頗る懇切を極めたるの觀がある、明治維新の革政は徳川幕政漸く衰微し諸役人の服務振も弛緩し民風は荒怠の狀を呈したので發生したる現象である、故に時の政府者は茲に民風の建直しの緊切なことを認識したので如上の方策に出たものと思はる、而して此の方策は全く中央集權主義に基きたるものであつて地方自治は認められて居ないのである、明治四年四月四日に至つて庄屋以下の名稱を改め、戸長副戸長としたのである、未だ一般的職制は定められざるも戶籍法に依つて定められたる戸長に關する條項を見るに左の如きものがある。

第一則

各地方土地ノ便宜ニ隨ヒ豫メ區畫ヲ定メ每區戸長並ニ副ヲ置キ長並ニ副ヲシテ其區内戸數人員生死出入等ヲ掌ラ

シム

第二則

戸長ハ必ス長ト副トニ限ル可ラス時宜ニヨリ長副數名アルモ妨ケナントス

但戸長ノ務ハ是迄各處ニ於テ庄屋名主年寄頭ト唱ル者等ニ掌ラシムルモ又ハ別人ヲ用フルモ妨ケナシ

第三則

凡ソ區畫ヲ定ムル警ハ一府一郡ヲ分テ何區或ハ何十區トシ其一區ヲ定ムルハ四五町若クハ七八村ヲ組合スヘシ此レモ其小ナルモノハ數十ニ及ヒ大ナルモノハ一二ニ止ルモ都テ其時宜ト便利トニ任セ妨ケナシ

以下略

とある、同年七月十四日には廢藩置縣が行はれた、左に其の詔書をかゝげる。

詔書 (明治四年七月十四日)

朕惟フニ更始ノ時ニ際シ内以テ億兆ヲ保安シ外以テ萬國ト對峙セント欲セハ宜ク名實相副ヒ政令一ニ歸セシムヘ

シ

朕曩ニ諸藩版籍奉還ノ議ヲ聽納シ新ニ知藩事ヲ命シ各其職ヲ奉セシム然ルニ數百年因襲ノ久シキ或ハ其名アリテ其實擧ラサル者アリ何ヲ以テ億兆ヲ保安シ萬國ト對峙スルヲ得ムヤ 朕深ク之ヲ慨ス仍テ今更ニ藩ヲ廢シ縣ト爲ス是務テ冗ヲ去リ簡ニ就キ有名無實ノ弊ヲ除キ政令多岐ノ憂無ラシメムトス汝群臣其レ 朕力意ヲ體セヨ

と是れに依つて藩は廢せられて縣か置かれた、夫れで同年十一月二十七日縣治條例が達せられた、而して此條例は縣治職制と縣治章程とに分たれて居る。縣治職制では官職を令又ハ權令、參事、七等出仕(以上奏任官)、典事、權典事、大屬、權大屬、少屬、權少屬、史生、出仕(以上判任官)とし、縣廳の事務擔任を四課に分つ、庶務、聽訟、租稅、出納の四課である、庶務課では社寺貫屬戶籍並人畜の數を稽查し郡長里正の勤怠を察し官省進達府縣往復の文書を察し學校の事務及郡長里正戸長外使部等の進退を掌り租稅課では正租雜租を收め豊凶を檢し及び開墾通船培植漁獵

山林堤防營繕社倉等の事を掌るのである。縣治章程は上款と下款とに分たれ、上款は三十一條下款は十六條である。上款には、(一)郡内郡村ノ制置經界ヲ釐正スルコト

(二)驛遞道路從來ノ方法ヲ變更シ郵便規則ヲ設立スルコト

(十一)新港ヲ開キ或ハ疏シ或ハ新河ヲ決スルコト(十二)

堤防橋梁を修築シ或ハ官舎ヲ營繕スルコト(十四)河川溝渠ノ填闕ヲ浚疏スルコト(十五)港灣ヲ修理スルコトの如き稟議處分を爲すの事項であるが下款には(十二)水陸運

輸の爲め新に舟船車馬の願を指令するが如き參事の專任處置し得る事項である。

明治維新直後に於ける諸政の革新は上叙の如く一に中央集權主義を目標とし取扱はれたのである、從て地方自治の如きは其の姿を見ることは出来ない。然るに其の後漸時政論も一般國民間に普及するの趨勢となつて地方自治制度整備時代へと進むべきの曙光を見らるゝに至つた、次號には地方自治制度整備の一步に付き述へるのである。(未完)

道路と電信電話線に就て氷川氏に答ふ

淺見親

本會誌三、四月號に於て永川比路志氏は「道路と電信電話線との關係に就て」なる題下に、私が嘗て雜誌「工政」二月號に於て同様なる題名にて掲げたる所説に對し大に論じられた同氏の文を讀みて前掲自分の所説の趣旨が充分徹

底してない所あるを發見し。且つ又同氏が誤解せる點あるを認めたるを以て、茲に重ねて自分の意見を述べて見たいと思ふ、但し一々反駁するの煩を避け重要な點だけにつき説明する。